

はくぶつかんの部屋 15

資料保存～IPMって何？～

博物館の仕事には「収集」「保存・管理」「展示公開」があります。特に「保存・管理」は市民の皆様から頂いた資料を大切に保管し、将来に残していくうえで重要な仕事です。博物館では資料を守るために、温湿度の管理や有害生物の防除を行っています。また、化学薬品を用いた「燻蒸・消毒」を行い有害生物を駆除しています。しかし、近年、環境や人体、収蔵品への影響やコスト面の問題から化学薬品をできるだけ用いず、有害生物の防除を行うIPMが注目されています。IPMとは「Integrated Pest Management」の略で害虫、ネズミなどの有害な生物による被害を未然に防ぐ管理のことです。今回は博物館のIPM活動についてお話しします。

国立博物館では、館内への有害生物の侵入を防ぐために各出入口にマットを置いていきます。靴裏についた害虫や有害生物の温床となる土を館内に入れないためです。また、周囲の環境をモニタリングし、アリの巣などの害虫の発生源を断つこともIPMの一環です。特に、資料を保管する収蔵庫は厳重に管理しており、新収蔵品を入れる場合は、資料に害虫がつかないか入念に

チェックし、燻蒸・消毒処理を行うまでは、収蔵庫とは別の場所での保管します。また、収蔵庫は「土足厳禁」となっており、専用のスリッパに履き替えて入ります。その他にも、館内への飲食物の持ち込み制限を行うなど、毎日の清掃で館内を清潔に保つことも有害生物の発生源を作らない大切な活動となります。

このようなIPMを行っても、有害生物の侵入や発生を完全に防ぐことはできません。そのため、現在博物館では年に1度の消毒と3年に1度、燻蒸を行っています。実施の際は、環境や人体に影響の少ない薬剤を用いています。これからも、博物館は人と環境と資料にやさしいIPMを通して収蔵品の保存管理をとめて行きます。



◀IPMの一環で蟻の巣を駆除する職場体験生



蟻酸で溶かされて巣が作られたサッシまわりの目地▶

【お問合せ】 国立博物館 ☎87019317

茶ぐわーゆんたく

112

嘉数高台のトーチカ

宜野湾市には様々な戦跡が残っていますが、嘉数高台公園にあるトーチカ(※)は宜野湾市に現存する唯一のトーチカといわれています。

嘉数高台は現在公園として整備され、地元の方々に利用されていますが、沖縄戦で米軍と日本軍が戦闘を交えた激戦地でした。

この嘉数での戦いは約二週間にも及ぶ戦いになり、「嘉数の山々は草木一本も残らず碎石場同然となっていた。米軍は船艇・陸・空から激しく撃ち込んだので3・4日間で山は真っ白くなっていた」と証言されている方もいます。

当時トーチカは日本軍により使用され、南側は兵士が出入りするために、そして反対の北側は銃を出して射撃するための銃眼として使われていました。

現在残っているトーチカの北側は弾痕の跡が無数にあり、中の鉄筋コンクリートがむき出しになるほど破壊されていて激しい戦闘が行われていたことを物語っています。

戦後68年経ち、戦争体験者がますます減少しています。そのため現在残された

戦跡が戦争を語り継いでいくものとして大事にしていく必要があります。

※トーチカとは小銃や機関銃、大砲などを置く場所を、分厚いコンクリートでおおった防御陣地の事です。

嘉数高台公園にあるトーチカ



(北側より撮影)



(南側より撮影)

「宜野湾市史」への問合せ
文化課 市史編集係(国立博物館内)

☎87019317

